



いし て じ
石 手 寺
Ishiteji Temple

石手寺に入り、大師堂の縁側で腰をおろしてしばらく息を入れていたとき、足もとにたれがすてたか、半紙大ほどのおみくじが風にうごいていた。子規はそれをひろいあげてじっとながめた。横から極堂がのぞきこんでみると、
「二十四番凶」
とある。そのなかに、「病事は長引かん。命には障りなし」と刷られていた。

司馬遼太郎著『坂の上の雲』（文藝春秋刊）単行本：2巻より

四国霊場51番札所。聖武天皇の勅願により神亀5（728）年に越智玉澄が建てたといわれる。文保2（1318）年に創建されたと伝えられる二王門は国宝であり、その他にも国の重要文化財が多数ある。

『坂の上の雲』では、明治28（1895）年、療養のため帰省した正岡子規が、柳原極堂を誘い石手寺まで散歩に行く様子が描かれている。

The 51st of the Shikoku 88-temple pilgrimage, it is said to have been built by Tamasumi Ochi in 728 on the order of the Emperor Shomu. The Niomon Gate, which is thought to have been built in 1318, is a national treasure, and there are many other important national cultural properties here.

In Ryotaro Shiba's novel *Saka no Ue no Kumo* (published by Bungei Shunju), Shiki Masaoka who had returned home for recuperation in 1895, is portrayed inviting Kyokudo Yanagihara for a walk to Ishiteji Temple.